

氏名	兼宗 美幸	部署	保健医療福祉学部看護学科	職名	教授
研究分野	母性看護学・助産学				
学位	博士（看護学）甲第22号				
学歴	1986年千葉大学看護学部看護学科卒、2000年文教大学大学院人間科学研究科修士課程生涯学習学専攻終了、2020年順天堂大学大学院医療看護学研究科博士後期課程修了				
経歴	1986年都立築地参院（当時）助産師、1989年埼玉県立衛生短期大学看護学科助手、1996年同講師、2005年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教授、2007年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授、2020年度現職				
所属学会（役職）	日本看護科学学会、日本母性看護学会、日本母性衛生学会（査読委員）、更年期と加齢のヘルスケア学会、日本女性医学学会、日本女性心身医学会、日本看護研究学会、日本看護教育学会（査読委員）、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会、				

【2020年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名
1	中期中絶を受ける女性へのケアで助産師に生じる葛藤と折り合い	共著	あり		日本母性看護学会誌、21（2）、9-17	齋藤未希、大月恵理子、兼宗美幸
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	中期中絶を受ける女性へのケアで助産師に生じる葛藤と折り合い	共同		第22回日本母性看護学会学術集会、オンライン	○齋藤未希、大月恵理子、兼宗美幸	2020.7
2	キャリア後期にある女性看護職に対するヘルスプロモーション行動の促進が更年期症状とワーク・エンゲイジメントに及ぼす影響	共同		第35回日本女性医学学会、東京都新宿区、ハイブリッド開催	○兼宗美幸、高橋真理	2020.11
3	遠隔演習における動画教材を活用した助産過程の展開	共同		第2回日本看護シミュレーションラーニング学会、web開催	○山本英子、兼宗美幸、鈴木幸子	2021.2
4	Web会議ツールを活用した妊産褥婦に対する遠隔実習の実践	共同		第35回日本助産学会学術集会、オンライン	○森田亜希子、鈴木幸子、兼宗美幸、東原亜希子、千葉真希子、山本英子、齋藤未希、浅井宏美、齋藤恵子、青木恭子	2021.03
5	助産学生対象の新生児ケアの演習におけるCOVID-19感染対策および教育上の工夫	共同		第35回日本助産学会学術集会、オンライン	○浅井宏美、山本英子、東原亜希子、森田亜希子、兼宗美幸、青木恭子、千葉真希子、齋藤未希、齋藤恵子、鈴木幸子	2021.03
6	分娩介助実習前のICTを活用した遠隔授業とCOVID-19感染対策を講じた演習の工夫	共同		第35回日本助産学会学術集会、オンライン	○東原亜希子、兼宗美幸、青木恭子、山本英子、森田亜希子、浅井宏美、齋藤恵子、齋藤未希、千葉真希子、鈴木幸子	2021.03
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	該当なし					
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	母性看護学Ⅱ（女性と家族）（2012年カリキュラム）	○	8	過年度生対象に遠隔授業をオンデマンド方式で開催した。動画やデジタル教材を取り入れ、身近な社会問題を踏まえた課題で学んだ。		
2	分娩期のケア 「分娩の生理」「分娩介助の意義」など	○	6	助産系履修者の主体的な学習意欲の持続を図るよう、入手しやすい動画教材やデジタル教材を取り入れて講義を構成した。		

3	リプロダクティブヘルスと看護 「性暴力と被害者支援」			1	前年度の学生の感想や意見を踏まえて教授内容（性暴力被害者支援映像の活用と事例の解説）を改善した。
4	母性看護学Ⅰ 「女性の健康とDV」			1	前年度の学生の感想や意見を踏まえて内容を精査し、資料及び方法（DV被害者支援の実際を事例で解説）を改善した。
5	周産期のケア 「助産倫理」「地域母子保健」			2	次年度の学習へと継続するよう、資料と方法（学生の経験に近い倫理的課題の事例、多様な地域母子保健教材の視聴）を改善した。
(2) 演習					
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	母性看護学Ⅱ	○	8	既存の動画教材よりもより手順を理解できるよう事前に「新生児の全身観察」動画を作成し、遠隔授業で活用し好評を得た。	
2	周産期のケア		5	少ない対面での実技演習時間が活用できるよう、対象者(妊婦)の視点でのケアの検討や振り返りができるように関わった。	
3	分娩期のケア		28	遠隔・対面でのシミュレーション演習3事例を代替事例とした。分娩介助技術の公開質問時間を5回設け自主的な学習を促した。	
4	大学院後期博士課程 次世代育成看護論		4	単元テーマに添った文献抄読とディスカッション、関連文献との討議を実施し、参加学生の研究テーマに関する知見を深めた。	
(3) 実習					
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	母性看護学実習		2020.5～2020.6 学内実習：6コマ	3年次生に遠隔実習を実施した。RHの課題の調査とまとめに関して達成度の較差が大きく、GWで理解が深まるよう支援した。	
2	総合実習		2020.7 学内実習：3週間	4年次生が実際の妊産婦へ看護過程を展開する上で、遠隔がハンデとならないようグループでの活発な意見交換を支援した。	
3	助産学実習Ⅱ		学外実習： 2020.8～10	コロナ禍により継続的に実習方法を調整した上で3名を臨地で指導した。様々な状況での産婦のケアから学ぶよう学生を支援した。	
4	IPW実習		2020.10. 学内実習：6日間	4年次生6名を紙面事例による遠隔実習で教員ファシリテータとして、連携と統合が一つでも実現しているよう支援した	
(4) 論文指導					
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数		
1	卒業論文		主指導	4名	副指導 0名
2	修士論文		主指導（指導教員）	0名	副指導（指導補助教員） 0名
3	博士論文		主指導（指導教員）	0名	副指導（指導補助教員） 1名
(5) その他					
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	動画教材作成	2020.11	オンライン演習の教材として、新生児の全身観察の動画媒体を作成した。		
2	動画教材作成	2020.12～2021.3	分娩介助技術自己練習の教材として、分娩介助技術の動画媒体を作成した。		
4. 社会貢献活動					
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師					
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ		開催年月
1	特別授業	埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園	高校生と性暴力 デート DV をやめよう防ごう		2021.02
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等					
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期	
1	日本母性衛生学会	査読委員		2020.4～現在	
2	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会	第12回学術集会企画・準備委員		2021.01～現在	
3	ウィメンズヘルス研究所	幹事		2020.04～現在	
(3) ジャーナリズムでの発言					
	メディア等の名称	内容			年月
	該当なし				
(4) その他					
	項目	相手方等	内容		期間
1	該当なし	越谷市立病院	病院経営審議会委員		2019.4～現在
2	該当なし	草加市立病院	看護研究指導		2020.4～現在
3	該当なし	認定特定非営利法人こしがやともろう	理事		2017.7～現在

5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	男女共同参画推進委員会相談員	2019.4～2021.03
2	該当なし	1年次担任および担任長	2020.4～現在
3	学科等における委員会等	実習計画調整会議長	2020.4～現在
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
	該当なし		
8. 特記事項			
	該当なし		